

なかのまつがおか 平成二十六年特別増刊号

松が丘片山町会

創立九十周年記念

昭和三十年八月 片山橋



記念式典 会式挨拶 山田晃町会長

松が丘片山町会の九十周年を迎えて

松が丘片山町会 会長 山田 晃

平成二十四年春三月、櫻井重紀前会長の突然の訃報に接し、会長代行として一年、会長として二年目の秋を迎えました。

十代目の櫻井前会長が亡くなられる寸前まで気にかけておられていたのが九十周年を迎える松が丘片山町会の式典のことでした。

町会この輝かしい歴史を全く知らない私が後任の町会長として担当するのは本当に荷の重い役割でした。町会の顧問、相談役の皆さん、そして櫻井さんからもお名前が挙がっていた方と町会の執行部の方を中心に実行委員会を立ち上げ、昨年末より九回の会合をもち、実行委員の皆さんの企画立案、協力の下、まず開催日を気候が比較的安定する十月二十五日と決めさせていただきます。

当日は午前中に中野区長様、中野区議会議長様、中野区社会福祉協議会様、野方警察署様、野方消防署様、江古田地区の町会長様、北野神社宮司様等十四名の来賓の皆様をお招きして記念式典、午後から町会員の皆様を対象に長年町会活動を支えてくださった会員の方へのお礼の意味を込めて「祝う会」を開催

することとしました。

会場も松が丘片山会館と町の鎮守様である北野神社境内を活用して手作りの祝典を開催することになりました。幸い、当日は好天に恵まれ、式典、祝う会共に実行委員の皆様、地区部長さんと町会役員の皆様、青年部、婦人部、子ども会のお父さんお母さん方、野方消防団第三分団のご協力を得て盛大に開催することが出来ました。

さてこの町会の歴史を少し振り返りますと、大正十四年初代会長になられた熊澤宗一様が「片山行司会」を創立されたのがスタートです。町会名は昭和二年に「片山会」に変更され、昭和三十八年町名変更に伴い、現在の「松が丘片山町会」となりました。熊澤宗一様はお亡くなりになる昭和四十三年まで実に四十四年間町会長を務められました。戦前、戦中、戦後の激動の時代にこの町の防犯・防火のリーダーとして活躍されるところにも会員相互の親睦に努められ、町会の基盤を作られました。そして八代目会長の古屋利一様の時代に現在の「松が丘片山町会会則」が整備され、町会員四百三名の方の寄付金により片山会館が新築され、町会活動を軌道に乗せ、その延長線上で今日があると考えています。

こうした先輩の皆様の努力に敬意を表するとともに、この歴史ある町会を時代の変化に合わせて、より活性化させねばと思えます。幸いこの土地にも若いご夫妻とお子様たちが増えてき

ております。二年に一度の北野神社の例大祭、夏の恒例の盆踊り大会、正月の福祉餅つき大会等、神社境内は大勢のお子様たちで賑わいます。こうした若い方々にとっても。この松が丘片山の地が「ふるさと」に感じていただけるよう、緑の木々の多い町並みを維持するとともに、安全・安心で住みやすい町づくりに町会として努力していきたいと考えています。

余談ですが、私はこの土地で生まれ、母が元気に育つようにと、生まれてすぐに片山橋横に捨てられたと聞いています。今の松が丘一丁目に住んでいた母方の祖母に拾われたそうです。私の子供の頃は、この片山橋横の崖を滑り降りるなど、遊びの場所の一つでした。偶々、今年春、第五中学校の池田副校長と懇談する機会があり、この片山橋の橋げたに落書きが絶えないことより、絵を描けないか相談したところ、五中の美術部の先生、生徒の皆さんに相談していただくことになりました。そこからはトントン拍子に話が進み、夏休みの課外活動として生徒の皆さんが相談して決めた絵を描いてくださることになりました。この件は中野区、野方警察署、野方防犯協会も積極的に応援してくださることになり、七月末から八月上旬の内六日間で夢のある明るい絵を描いていただきました。お蔭様で三か月経過した現在落書きは無く、こうした町会の活動も町を明るくするうえで必要なだと考えています。

私にとって片山橋は「ふるさとのシンボル」です。昔は沼袋



記念式典 来賓祝辞 田中大輔中野区長

氷川神社の松並木の横に見えた富士山が見えなくなるなど、片山橋からの景観も大きく変わり、現在は東京スカイツリーを東に見ることが出来ます。これも時代の変遷で止むを得ないことですが、多少寂しい気がします。こうした松が丘片山の地の良さ、思い出は、創立百周年に向けて、少しでも増やしていければと念じています。

今回、九十周年記念事業の一つとして、北野神社境内に「枝垂れ桜」の植樹を企画しました。偶々十月は植え替えのタイミングが悪いということで、年明けに九十周年記念植樹を行います。会館の縁台から町会員の皆様と「花見の宴」を出来るのが、新しい楽しみです。

町会員の皆様には、これからも町会活動へのご支援、ご協力をお願いしてご挨拶とさせていただきます。



記念式典 乾杯 熊澤明顧問

「ふるさと」松が丘に育てられて住んで

熊澤 明

今年が松が丘片山町会創立九十周年に当たり、歴代の町会長はじめ、多勢の役員がその時代の諸問題を「奉仕と努力の精神」で乗り越えて来られたことに、心から敬意を表したいと思えます。

私は「カラオケ」が好きで、時々スナックへ行きますが、持ち歌の中で、例えば五木ひろしの「ふるさと」、千昌夫の「ふるさとの祭り」、北原謙次の「ふるさとの話をしようよ」等、「ふるさと」の文句が入っている歌をよく歌います。私にとって「ふるさと」は、この松が丘（片山）です。松が丘で生まれ育ち、住んで七十五年になりました。私の代で十代目（亡くなった母を入れると十一代目）になります。私の親戚では今でも中野の熊澤ではなく「片山」で通っております。

今「片山」と名の付いているのは「片山橋」「松が丘片山町会」と「片山会館」ぐらいになってしまい、非常に淋しく思っております。旧片山橋から東はオリエンタル写真工業の第二工場、西は沼袋の氷川神社の森、南は中野事務所とその先に富士山、北は哲学堂が見えました。今はオリエンタルも事務所もなくな



記念式典 会場の様子

り、富士山も見えませんが。辛うじてオリエンタルのあった方角に東京スカイツリーが見えるのが幸いです。

子供の頃の思い出は、北野神社のお祭りです。お祭りのない年には、江古田氷川神社の獅子舞、葛ヶ谷（現西落合）の御霊神社のお祭り、または上高田の氷川神社のお祭りで、神輿より夜店が目的でよく出張しました。特に、新井薬師梅照院の縁日の夜店は一番の楽しみでした。また遊び場としては哲学堂で、「探検」と称して崖をよじ登ったり、その下の妙正寺川で「ザリガニ」釣りも面白かったです。

私が町会のお手伝いをするようになったのは、祖父が町会長の時の昭和三十三年の暮れの町内夜警をやったのが初めてだったと思います。当時、松が丘の夜は、人通りも、外燈も少なく、暗くて怖かったのを覚えております。暮れの真夜中、道路に酔っ払いが寝てて、パトカーを呼んで、野方署まで同行したこともありました。又、中野郵便局が暮れにストライキをやった年もあり、郵便配達を町会に依頼して来たので、祖父から「お前は学生で暇が有るんだから、配達をやってくれ」と云うことで、小学校時代の同級生を誘ってやりました。朝、郵便局に取りに行きました。当時パンフレット類は少なく、手紙類とハガキで、量的には今より多くなかったと思いますが、暮れの一週間ぐらいと正月元旦と三日の年賀状の配達もやりました。これは局からバイト料を貰い、大学生の小遣いとしては助かりました。

小学校の同級生で第五代町会長の細野たいじ君の時に、会計監査を森龍朗さんと二期四年仰せつかった事もありました。又、細野会長が任期満了になるので、次期町会長を選出する選挙委員を昭和六十四年の暮れに頼まれ、簡単に受けてしまいました。これが大変でした。委員のメンバーは今野三重雄さん、矢島昭一さん、野村泰弘さん、杉田和子さん、松丸勲さん、久保田巖さんと私の七人でした。年が明けた平成元年の一月末から人選に入りましたが、町会長を受けてくれる方がなかなかおりませんでした。小島義三郎さんには再参再四お願いはしておりましたが、返事はなかなか貰えません。ところが最後になって小島さんから選挙委員が全員手伝ってくれるなら受けてもよいと云うことになり、七人全員が副会長を受ける羽目になってしまいました。町会では恒例で毎年五月に新役員の顔合わせ、打合せを行っており、旧片山会館では狭いので、中野清掃事務所の会議室をお借りしておりました。当日会議室の最前列に、会長、副会長八人が雁首を並べたものですから、出席者の内から「皆さんそんなに副会長をやりたいんですか」と皮肉られ参りました。副会長が多いことは会の運営にやって見て良い事だと思います。

当時の副会長のお手伝いは、各部の担当と町会員のご家族の葬儀の際のお手伝いでした。一番大変だったのは平成三年頃だと思いますが、中野清掃事務所から今後燃えないごみの「びん・

缶」の回収を町会でやって貰いたいと町会に振ってきました。

町会の役員会では、やるにしても「一体誰がやるんですか」と云うことで、結局副会長が七人いるのだから、副会長でやるうと云うことになりました。確か中野区では鷺ノ宮地区が一番、松が丘が二番目に手を上げたと聞いております。そこで当番制にして、最初は月二回ぐらい、雨天でも回収に廻りました。一番参ったのは夏場「缶」を洗わずに出してくるのもあり、匂ってたまりませんでした。最初はリヤカーで廻りましたが効率が悪く、最後は松丸さんの二トントラックを出して貰い、町内を廻りました。回収した「びん・缶」は中野区本町の協和硝子㈱に持込み、回収の量により、後日中野区から毎月町会に補助金が振り込まれました。一廻りで補助金が三千円〜五千円ぐらいだったと思いますが、回収は約六〜七か月続きましたが、その後中野区が回収業者を選定してくれましたので、以後業者回収で現在に至っております。

私も副会長を二期四年やったところで、勤めの方が忙しくなり平成五年三月末で降ろさせていただきました。夜警をやったり、郵便配達をしたことで、町内の方の名前を覚えたり、役員をやった事でも町内の方々と親しくさせて貰い有難く思っております。

松が丘片山町会でも約一世紀百周年に向かって進み、最近中野区は「住みたい町」「住んで良かった町」として評価が高くな

記念式典
集合写真



ってきました。私たちが松が丘に住んで良かったと会員の皆様
が思う様に、より一層、町会役員・町会会員の皆様の奉仕と協
力で松が丘が「心のふるさと」になるようにしようではありませんか。



記念式典 閉式挨拶 古屋利一相談役

創立九十周年に際して

古屋 利一

九十周年おめでとうございます。

私が昭和二十七年に引越して来た時は、中野区江古田で中野通りは畑と雑木林でした。当時の現状を思うと、初代町会長の熊澤宗一氏が各方面にご尽力があり、色々とご苦勞された事と思います。町会は松が丘北野神社を中心に、境内にある片山会館で町会の各行事が行なわれています。

私が町会長を引き受けてからの会館建設の経緯をお話しします。

平成七年当時大きな出来事（地震・オウムの事件）がありました。特に阪神淡路大震災は世界を驚かす災害でした。その状況を見た時に、片山会館の老朽化（瓦屋根が壊れ、土台が腐っていた）を思い、会員の方々の憩いの場である所を一日も早く建設をと役員はじめ相談役、氏子総代（町会顧問）に話した所、賛成して頂きました。進めて行く上で、色々ご指導を頂き、氏子会、町会員を主にして建設委員会を立ち上げ、趣意書を回覧で各家庭に配布しました。

立ち上げた時の皆様の氏名は次の方々です。



記念式典 三本締め 深野晃司組頭

*先輩・仲間として

氏子総代・・・深野正浩氏、北島鋏吉氏、熊澤明氏、熊澤宇源次氏（秀一郎氏の父）、矢島昭一氏、深野辰夫氏、竹村和夫氏
町会役員・・・小島幸夫、大谷武、久保田巖、松丸勲夫、深野裕、植木さと、深野晃司、深野宜伸、中村文康、館野マサ

皆さんと一か月半かけて、町内四百五十軒の方々にご寄付とご協力をお願いして廻りました。建設は当時町会役員であった山本工務店（現株式会社MAC）の山本雅道氏にお願いしました。

平成八年十月着工、九年五月落成、祝賀会は境内全体にテントを張り、近隣の町会長はじめ役所関係のご来賓をお迎えし、約三百名の方々と共に盛大に行われた。皆様の為と思っても、世の中何をやっても賛否があります。自信を持って、多少無理があっても進む事が必要だと良くわかりました。

松が丘片山町会は江古田地区に入っています。江原町町会、旭公民館町会、江古田一丁目町会、江古田住宅自治会の五町会です。老人会は各町会の下でまわっています。松が丘は地域的に四町会から離れている関係もあって、各町会とのお付き合いが余りありませんでした。皆様の要望もあり、役員と相談して、とりあえず、身近で出来る、「江古田地区まつり」に参加（芸能祭、ゲートボール大会）。これからは若い方たちの時代、もっと江古田地区全体の方々とお付き合いをしてもらいたいと思います。

我が町会は全般的に静かな住宅街ですが、最近若い方々が多くなり、子供達が多く目立ち、ラジオ体操、盆踊り、カレー大会、一年おきのお祭りに多数参加されています。頼もしい限りです。

私が行ってきた行事の一部をお話しします。

盆踊りは元会長の小島義三郎氏と打ち合わせをしながら始めました。歳末、大晦日の甘酒の接待は婦人部古市きみ子さんほか数名で始めた。お餅搗きは新月堂さんの斉藤昌久氏のご尽力で、新しい会員とのコミュニケーションを取るのにとっても良い行事でした。交通安全週間の拠点、パトロールを小島清隆氏達と立ち上げました。前町会長の櫻井重紀氏と共に防災訓練、青年部を立ち上げました。子供会として佐藤静江さん、塚原真理子さんには江古田地区と協力し、基盤を作ってくれました。それとお餅搗き、カレー大会の支度を頂きました。

松が丘にも時代の流れで、新築マンションが、アレヨアレヨと五棟も建ち、不動産会社と町会員への加入について直接話し合いました。新築のお宅への加入の勧めにも歩きました。

年中行事の日帰り、一泊研修旅行は左記の所へ

◎日帰り研修旅行

*川越小江戸見学、レッドアロー号でお昼はいも料理

*笠間稻荷神社と笠間焼、各自湯呑などを焼き、出来上がりはまとめて送ってもらった

*東京江戸史料館、本所防災館、亀戸天神

*JAS羽田整備工場、中華街

*隅田川水辺ライン下り約三時間半荒川へ、両国でチャッコを

頂く

*東海村原子力発電所見学、大洗市場にて昼食

*夢の島埋立て地、東京湾メタンガス

*立川防災館見学、ビール工場が最新設備

*都水道金町浄水場、お茶の水水資料館

*東京ガス資料館、川崎ビール工場、中華街

*警視庁、消防庁、都庁見学、都庁で昼食

◎一泊研修旅行

*柏崎原子力発電所見学、弥彦神社、弥彦温泉

*南蔵王お釜、遠刈田温泉、高原大根お土産

*伊豆半島一周、稲取温泉

*高瀬川水力発電所（東京の電力が不足すると五分で発電送るそうです）大町温泉、安曇野で山下大五郎画伯の画廊見学

*山梨県身延山久遠寺、美術館見学、身延温泉

*寸又峡温泉、お茶工場、牛乳パックリサイクル工場の丸富製

糸工場に（牛乳パック一枚でトイレットペーパー三ロール出来るそうです）

*箱根小涌園温泉、芦ノ湖一周

*福島いわき湯本温泉、勿来の関名所見学



祝う会 受付風景

現在は町会役員も若い人達になり、全体に明るくなりました。中野通り片山橋下の壁に区立第五中学校の美術部の生徒さんによる壁画、これを見ても若い、明るい町になってきた様で楽しみです。

六年後には二度目のオリンピック・パラリンピック、一度目は戦後の焼野原から、たった十九年で新幹線に高速道路、オリンピック・パラリンピックと先輩の方々が頑張りました。

六年後のオリンピック・パラリンピックでどの様になるか楽しみ、その四年後は松が丘片山町会百周年、若い人達の行う行事が楽しみです。

私は現在、中野区友愛クラブ連合会、片山長寿クラブの責任ある立場にいます。

我々老人会として、町会の各行事に参加し、経験をいかし、協力して楽しい町会にしたいと思います。今思うと、素晴らしい先輩、仲間に恵まれました。



祝う会 開会挨拶 山田晃町会長

松が丘片山町会 九十周年に寄せて

久保田 巖

松が丘片山町会九十周年おめでとうございます。私は昭和三十八年に結婚し、それを機に町会会員になりました。入会当初、御近所の方々との関わりの中から、家の中の仕事上、消防団入団を進められて、昭和四十三年に入団いたしました。そのご縁から、熊澤宗一様、深野正浩様、熊澤宇源次様、北島鎌吉様、皆様のお世話になり、片山会館に住み込ませて頂くことになりました。

昭和四十三年七月に、熊澤宗一様がご逝去されました折の告別式には、蓮華寺の門前で、消防団旗を持って、お見送りをする事ができ、今でも忘れられません。その事は松が丘片山町会の入会と消防団員になった事による幸せと初めての大きな任務であった様に思います。

当時の町会長は、荒井千代平様でした。町会の仕事は、回覧書類を各班長さんまで届ける事、又老人会の日には、机を出して、火鉢に火をおこして、部屋を暖めて皆様を待つ事、忙しい仕事でしたが楽しい思い出です。北野神社の行事の時は、前日に社殿と庭を綺麗に掃き清めて、祭日を迎えました。昭和四十



祝う会
樽酒鏡割り

三年頃の総代は深野正浩様、北島敏吉様、熊澤宗源次様でした。総代、氏子世話人の方々にご指導を頂いて、多くの神事を学ぶ事も出来、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。当時は二人の男の子の育て中でした。子供会の背本富三様、島田武山様のお勧めで、子供会の仕事にも携わる事になりました。婦人部長の塚本はな様や子供会の役員の方々と子供達を連れて、キャンプに行った事も浮かんできます。

昭和四十八年に、隣のマンションに移り住む事になりましたが、町会のお手伝いは続けておりました。その頃会館の建替えの話が持ち上がり、少しでも建替えに役立てようと、小島義三郎町会長を中心に、役員の方々とリヤカーを引いて、資源物を回収して歩いたことも、懐かしく思い出されます。

その後、古屋利一会長の代に会館が立派に完成されました。思えば、荒井千代平会長から十代の町会長の下で、町会の諸行事の手伝いが出来ました事は、私達夫婦にとっても、少しでも成長出来た一因だと思っております。

今は町会の組織も整い、山田晃会長を中心にして、新年の餅搗き大会・防災訓練・夏の盆踊り・秋のお祭り・町会の旅行等に積極的に参加される役員の活動に、頭の下がる思いです。

私は、これからも町会の行事に出来る限り参加するよう心掛けて参りたいと思います。最後に、松が丘片山町会の益々の御発展と北野神社の安泰を心よりお祈り申し上げます。

祝う会 長寿会による片山音頭合唱



必ず出くわす麦畑と…

森 龍朗

その橋、下をのぞいても川は流れていなかった。子供心に不思議だったが、素晴らしい見晴らし台でもあり天文台でもあった。富士山は勿論、連なる山なみ、登る朝日に沈む夕日、星空の絵図、三日月に満月、日蝕・月蝕、四季折々の雲、それに、おまけがあった。今のアリス・スポーツ・クラブから四村橋にかけて「オリエンタル写真工業」があり、燃えやすいフィルムを扱っていた為か頻繁に火事が起き、サイレンが鳴る度にこの橋に駆けつけては見物をした。何を見るにも絶好の場所であったが、昨今、見える物と云えば、今夏、橋下の壁に五中の生徒の皆さんが制作した壁画と、ビルの壁影遠く汚れた空気の中にもぼんやりと浮かぶスカイツリーだけになってしまった。

その頃の橋は、今より小振りであった。可愛らしい丸窓が欄干に幾つも並び風情があった。今と違い、買い物や外出をするには上高田・新井薬師駅方面に行かざるを得なかったので、この橋は日常生活には欠かせない大切な通い道であった。

が、この陸橋は隠れた役目も担っていた。片山の北の突端の台地部分は、狭いながらも聖域の趣を漂わせ、この結界と外の



祝う会
模擬店
バーベキュー

娑婆とを出入りする際、その気構えを調えさせる境目がこの橋だった。風雨、朝晩、何時如何なる時に通っても、ヒョイと縄文人らしき老人が橋の隅っこから現われ、行く人の右肩あたりを竹の杖でポイと触れ、「イッテラッシャイ、元気でねー」と声をかける。又、外から戻って橋を渡り始めるとその老人は、「オツカレサマ！」と軽く会釈をする。それが何とも温かく親しみがあり、やっと我が家に帰って来たと言う安堵感をもたらしてくれる。昔も今もこの事は変わらずに在り続けて来たのが片山の陸橋である。

先日、この橋の下に住んでいる幼馴染みのIさんが「昔、片山橋の横には坂があつて・・・」とボソボソと話し掛けて来た。そう云えば恐ろしく危険な坂だったのを思い出す。北側のたもとの今ある階段とは反対の西側に凸凹にえぐられた急な坂道があった。造作したのは雨水である。橋に降った雨は逃げ場を求めて草の生えた赤土の土手を沼袋側に流れ落ちたのだ。坂道ではなく土砂崩れの跡と云った方が正確なのだが、我々子供は遊びも兼ね、ここを坂道として登り下りした。少しでも雨が降って濡れると赤土は滑り、草を掴みながら挑戦するのだが、矢張り滑ってズボンのお尻や脛を赤く泥だらけにしたものである。この危険が楽しかった！Iさんも随分とお母さんを困らせたことだろう。わんぱく共はこの坂でスッコロガルのが愉快で好きだったのだ。

我が家から外に出るにも帰るにも、南に位置する片山橋だけが唯一平坦に歩ける道であり、東、西、北、どちらに向かつても坂が待ち受けている。

その坂の事だが、我が家の前には東西方向に横断する道があり、東に坂を下りると中野通りから哲学堂の裏門に突き当たる。片山はどこを歩いても松と桜で埋まっていたのに、この坂の両側だけはアオギリが立ち並びスキに囲まれた麦畑が広がっていた。当然ながら片山の台地部分は稲作よりも麦や野菜作りが主流だった。過日、片山で古くから唄われていた「大麦棒打唄」なるものをSPの蓄音盤で聴く機会があった。昭和三十七年に録音されたものだが、唄っていたのが将に九十年前、この松が丘片山町会を立ち上げた熊沢宗一氏、深野千代氏ほか古老の皆さんだった。労作唄は、日向にムシロを広げ、ヒュルリと棒を回して大麦の穂を打ちながら口ずさまれていたのだろうが、麦作が行われなくなればその唄も消えるのが宿命である。この蓄音盤はその危惧を悟り、意識的に古老たちが最後とばかりに残していった片山文化遺産なのだろう。

数年前、この坂道の情景を一年に亘って写真に撮った折、自分勝手に片山“東坂”と命名した。そして反対の坂は沼袋に通じ、夏には大きな夕日が銭湯の煙突に串刺しになって落ちて行くのだが、この極楽に向かう坂を片山“西坂”と命名した。…乞う、ご賛同！

小学校低学年のある夏、この西坂の下から赤い夕陽が道一杯に差し込んで燃え広がる中、色々な種類のトンボやコウモリが隙間もないほど真つ黒になって飛び交った。ソレーツとばかりに竹竿を振り回して叩き落そうとしても背が低くて成果は上がらなかった。丁兄さんが採集用の大きな真つ白い網を一振りすると沢山のトンボが捕れて壮観だった。日が落ち、空が濃い藍色に染まり始めてもトンボの黒い影は群れつづけて散らず、先に我々子供の方がお腹が空いて家に帰った。

その西坂の下は中野から江古田に通じる道にぶつかり、丁字路の向う側には麦畑が広がっていた。今の沼江橋は勿論なく、妙正寺川は麦畑の中を隠れるように潜んでくねくねと流れていた。

この道は古くからあったのだろうか、北へと江古田小学校へ通う道である。冬、北風が強く吹き付けて歩くのも困難であったが、春には雲雀のなく青い麦畑の中を曲がって、曲がって、又曲がって縫うように通学した。麦が黄色くなると穂を抜いて手のひらに包み込み、揉み解してはチューインガム替わりに噛みながら帰宅したものである。

西坂の横手、今のパインヒルズ辺りはタンコブ状の丘であり、草、茫々の中に松の木が点在する造成半ばの片山の姿があった。西側は崩れて赤土が口を開き野趣そのものであったが、戦時中は大きな横穴の防空壕が掘られていた。悪ガキ仲間はその間に



祝う会
輪投げ

転がる拳ほどの赤土の塊をぶつけ合い、道との間にある背高く群生しているカラタチを防御壁にして泥合戦をしたものである。土の塊とは云え、当ればドシッと痛く、殊に顔面に当たると泣いたものである。カラタチの花は白くユズの様な黄色い実を付けるのだが、長い大きなトゲがある。そのトゲの茂みに相手を押しつけて苛め、歓声を上げては喜んだ。いや、逆だったか！

この西坂下から南に少し下ると沼袋方面に渡る山下橋が丁字路を作っていた。その頃、妙正寺川はどこからともなく麦畑の中から現れ、小さく蛇行して道沿いを流れ、橋をくぐったかと思うと、また、麦畑の中に消え失せる神秘的な生き物だった。水はきれいだったが兩岸は草に覆われ、テカテカに光った赤土の川底を滑らかに勢いよく流れる場所があるかと思えば、深く底をえぐって淀むところもあり、岸から覗きこむだけでゾクツとしたものだ。

冷や汗をかいたのは、我が家から南西に今の二丁目十一番地と十四番地の間にある「くの字」に曲がった片山一番の急な坂道を三輪車に乗って下りる時であった。山下橋の南手前の道に出た途端、柵のない丁字路の頭の向こうでは川が音を立てているので、死に物狂いで大地を踏みつけ、足ブレーキを掛けないければならなかった。川は現在、十五番地一帯の西側を真っ直ぐに流れているが、昔は反対の東側の道に接して、つまり山の裾にぶつかって蛇行し、三十メートルばかりふくらんで山下橋に

至り、又北西に離れて行ったのである。

我が家から北へ歩くと、右手東に北野神社へ下りる坂がある。この坂は真つ直ぐで、長さ、勾配、どの面でも片山一番の横綱格の坂と云えよう。途中、神社の手前の北側一带には、妖怪が住んでいそうなジメジメと陰惨な林が奥へと続き、不気味で恐ろしく何故か踏み入って遊ぶ気にはなれなかった。そんな化物を鎮めるために北野神社が建てられたのではないかとさえ思われた。

坂を下りず、真つ直ぐ西側の麦畑に沿って北へ進み、左にカーブした右側には江古田公園の石の門柱があった。不揃いの階段を下りると、妙正寺川は江古田川と合流して江古田公園の中を流れ、天神橋から下田橋、そして哲学堂の梅林を経て四村橋へと続く。ここまでが遊びの行動範囲だった。

公園には下りず更に道なりに北西に行くと左側の鬱蒼とした原生林からドングリの大木の枝が道を覆い、昼間でも暗かった。右手には雪子チャンの家のほか二軒ばかりが片山で一番奥まった場所を占めていた。

更に進むと南側に視界が急に開け、下は窪地で麦畑が沼袋の高台まで続いていた。右手下には、再び妙正寺川が顔を出し、高台の赤壁の下、江古田川との合流点へと流れている。道はこの川沿いを川上に向かって下る一尺五寸ばかりのなだらかな細い坂道になり、下りきると江古田橋のたもとに出る。滅多に人

は通らないので草は生え、石ころだらけで歩きづらかったが、勇ましく草を蹴り分けて進むとバツタが飛び跳ね、首を上げれば沼袋の高台まで広々と見渡せ、子供心に爽快で大好きな坂道だった。

第七中学校二年の頃、図画の授業でこの坂道を逆に登り、人家の後ろの突端の崖つぶちへ写生に出掛けた事があった。この突端は新青梅街道から見上げると、川からそそり立つ赤土の絶壁の上にあつて、如何にも山の切れ端である「片山」らしさを象徴する東京でも珍しい景色を呈していた。崖の上からは江古田一带を一望出来、給水塔を中心に東福寺から療養所の森にかけて遠景を画けたのである。私は絵を描くのが好きだったが完成できずに提出しなかった。草株に腰を下ろした途端、土器片を拾ったのである。絵筆の端で赤土をどけ、あっちこちと縄文土器のかけらを探すのに夢中になってしまったのである。蛇行する妙正寺川に抱かれたこの赤土の山に、大昔から人が住んでいたとは驚きであった。そして今に至る片山は、麦や野菜こそ作らなくなったが、沢山の元気で明るいスックとした青菜のような子供たちが、未来への坂道を登り続けている。

故郷である。



祝う会で配布された風船

松が丘のかつてと今

富井 達

九十年前の1924年(大正十三年)は、前年関東大震災が発生し、十四万人の死者や行方不明者と、七十万户の全壊・焼失家屋があり、戒厳令が出されたと記録に残っています。

ただ、1937年(昭和十二年)七月七日からの日支事変に続く、1941年(昭和十六年)十二月八日に始まった大東亜戦争の1945年(昭和二十年)八月十五日終戦までの、当地が受けた被害はそれまでにないもので、1945年(昭和二十年)五月二十五日の空襲時のようなことをその後経験することは起きていません。

過去約七十年前の戦前戦中を振り返り、最近と対比しつつ思い出を綴ってみます。

町会会員名簿の中に記載されている先人の貴重な記録を待つまでもなく、大正末期から昭和の初期のわが町は南東に今ほどではないにしても商店街のある地区と、それに続く住宅地を主として、多くの和風の家屋の間に、洋館や和洋折衷の家も見られた土地柄でした。町内に現在と同様学校は無く、工場は、北にオリエンタル写真会社、北西端丘上に湘南香料がありました

が、今や過去のものになっています。

かつてと今の自然について、松竹梅を挙げ記してみます。松については、台地の尾根相当を通る上の道の片山橋近くの南向きの斜面や、以前は妙正寺川が接していた下の道の少し北から江古田橋までの途中の東側の斜面から台地上にかけて、松が多量に数植えられていました。土地を尋ねられた時、「松山」と言えば、この一帯の場所名として通じたものです。しかし、今や松の木は、この辺りでは上の道に散見される程度です。現在、比較的多いのは哲学堂公園で、かつての天狗松は無いのですが、あつた周辺には十数本の松が幹を伸ばし、あるいは枝を広げています。

竹については、太い竹の藪として大規模に植わっているのを町内で見たことが無いのですが、直径10m前後かそれ以下のいわゆる笹については、妙正寺川の流域周辺の野原におい茂っていて、戦時中、地主さんから借用した河川敷の土地を農地にしようとする隣組の主婦や子供らが笹藪の地下茎除去に悪銭苦闘したことがあります。竹槍で本土決戦を戦おうとの話があった頃のことですが、原爆投下で、彼等の戦力の格差を思い知らされた次第です。

梅については、今春など北野神社の紅梅、白梅とともに、一本の木で紅白の花が咲く梅が町内でも見られました。哲学堂公園の今ある梅は、一時移植したものが戻ってきたと聞いていま

すが、最近、雲(みぞれ)の日に花火の尺玉があがり聞いたように見事に球状に花をつけているのが見られました。昭和初期、哲学堂公園の妙正寺川南岸に訪れる人は殆ど無く、草刈りのお年寄りや仲よしになった時、青梅を数粒ポケットに入れてもらったことがあります。家に持ち帰り、日の丸弁当の梅干しにと試みたのですが、結果は憶えていません。

当時、片山橋から蓮華寺への道は、砂利道で草が茂り、真ん中に一本、人一人が通れる黒土の部分があるだけで、自動車は通らず、人が一日何人通るかの、今の中野通りとはまったく異なる道でした。思えば、江古田橋の近くの学友の家には馬小屋があつて、今トラックで運ぶ大ききの荷物の運搬には馬の力に頼っていた時代の話です。

町内には、戦前少数ながら、旧家が藁葺屋根で、冬の寒風や春先の乾いた関東ロームの塵埃を防ぐのに家の北や東西に檜などの建材に向く大木を植えていました。また庭には柿の木をよく見かけました。しかしながら、第二次大戦後には大木の姿は桜などを残して少なくなり、大木があるのは個人宅よりは、北野神社、江古田公園、松が丘公園、哲学堂公園、中野通り、新青梅街道などで主に植えられているように見受けられます。

九十年の間、日本も世界も随分変わっていることをあらためて実感しています。当地での、道路、交通機関、上下水道、燃料など、枚挙に暇がありません。

祝う会 模擬店 ポップコーン



ごく幾つかを例を挙げると、日常生活では、近所の家々には井戸水を汲み上げる手押しポンプがあり、炊事や風呂に使い、洗濯には井戸水と洗濯板を使っていました。夏、冷蔵庫には配達時大きな鋸で切られた氷を入れ、冬は火鉢・炬燵・行火(あんか)に木炭や煉炭・豆炭で煮炊きや暖をとったものです。しかし、現今これらはすべて使われていません。

情報については、放送局が限られた状況下で、鉱石ラジオや真空管ラジオからのものが耳で聴く主なもので、電話は限られた家にしかありませんでした。

日常生活の電化もさることながら、最近の、空いた電車内で半数以上の人々が画面をにらみ、指を動かしている状況とその普及の速さがかつて予測した人がいたでしょうか。

ただ、変わらぬものもあります。妙正寺川の川筋は多少変わりましたが西から来た流れが北に向きを変え突出した台地を廻って東から南に向かい、その後東に向かうのを見下ろして立つ、巖然たる片山なる台地の自然の姿もその一つではないかと考えます。たとえ、道路工事で削ったり、戦時中防空壕を一部に掘ったり、したとしても、基本体型は微動だにしていません。妙正寺川に似た川筋は、合流する江古田川でも、江古田の森を同じように巻いて北向きから南向きに方向を変えています。しかし、規模は妙正寺川の方が上です。

他にも変わらぬものがあり、それは地元を大切にしようとす

祝う会で配布された飲み物



る人の心です。かつては、田畑や野原があり、あまり必要なかったかもしれない。しかし、現在、特に取り決めは無い筈なのですが、町内には、道路に面して鉢植えや小さな花壇などに花々が飾られ、通る人の心をなごませてくれます。まさに、先人が、「片山音頭」の末尾にあれかしと託した「片山よいとこ花の里」です。

個人的なことですが、先人の須藤良作氏の「松が丘(片山)の思い出」に記されている背戸の深野正浩氏から以前に「土地っ子」と呼ばれた者として思いつくまに記しました。



祝う会 射的

松が丘片山町会九十周年にあたって

川合 通裕

松が丘片山町会九十周年誠におめでとうございます。

私が仕事の転勤に伴って松が丘に越してきたのは平成十四年の十二月ですから、早いものでこちらにお世話になって十二年になります。もともと大阪の下町の難波で生まれ育ちの関西人が、東京でうまく馴染んでいくんかいな、と最初は不安もありましたが、今ではすっかり町会の一員として友人も増え、様々なイベントも参加して楽しんでます。上高田小四年と二年だった二人の娘も、今は成人して大学三年と一年にもなりました。彼女たちにとっては、実家の大阪よりも松が丘が第一の故郷になっていますね。

町会に入るきっかけとなったのは五年前の夏祭り。町会の神輿を担いでみないか、との誘いをいただき初参加しました。ダボシャツに猿股、地下足袋、ねじり鉢巻き、そしてお借りした片山睦の法被を羽織る。ちよつと江戸っ子になった気分です、粋な感じを見よう見まねで「えっさ！ほいさー」。体をぶつけ合って激しく揺さぶった宮入後には、名前は知らなくても意気投合した仲間たちがそこにいました。今では家内も加わり、神輿

と聞けば血が騒ぐという祭り好きに。来年の町会神輿も楽しみです。

青年部の防災活動では、軽可搬ポンプ大会が意外と楽しめました。決められた手順に則り、号令をかけてポンプを運び放水する。三人の操作員が各々の役割を手際よく、適切に行うことによつて短時間で確実な消火が可能となる。何度も練習してうまくいった時には、ちよつと格好いいかなと自画自賛。本番で多少のミスはあったものの優秀賞をいただくことができ、ただかスポーツ大会で勝つたようで嬉しかったですね。

町会のイベントはほぼすべて参加しています。もちつき大会、カレー大会、盆踊り、防災訓練、交通安全、年末夜警等々。なんととっても去年の年末に行つた「青年部忘年宴の会」が大盛り上がりでした。興梠さんと一緒にギターを片手に、皆さんのリクエストによるミニコンサート。独楽睦さんにも参加いただいて、次から次へ歌を歌つて本当に楽しいひとときでした。毎年恒例のイベントにしていきたいですね。

こうして町会活動に参加するうちに顔見知りも増え、道端でも挨拶をかわすことが多くなりました。氏子代表をはじめ、朗らかで温かな方々も多く、こういう方々がいらつしやるからこそ松が丘片山町会がしっかりとした歴史を刻んで来れたんだと思います。九十年を迎え、これからも百周年、百十周年と大切に受け継いでいかねばなりません。

人と人のつながりがあればこそ、いざという時の団結、防災、防犯にもつながり、安全で安心できる暮らしにつながっていきます。今後少しでも多くの方が参加してもらえよう、イベントも盛り上げて、友人つながりを増やしていきたいと存じます。

今後とも家族ともども町会にお世話になります。
これからもよろしくお願いいたします。



祝う会
抽選会の様子

九十周年に寄せて

白畑 徹二

松が丘片山町会の九十周年おめでとうございます！

我が家が松が丘に引っ越してきて早いものでもう十三年が経過いたしました。当時は娘の風美も生まれてまだ半年の赤ちゃんで、妻の春美と一緒に新しい環境での生活を楽しみにしていたのを思い出します。当初の松が丘に対しての印象は、昔ながらの住宅街で静かで過ごしやすそうな感じがいたしました。新築物件巡りをする中で青葉の桜並木の中野通りを見て、是非この街で暮らしたいねと夫婦で話した事がつい先日のように思い出せます。

当時を振り返り妻にその頃の子育て環境を聞いてみると、児童館では色々な方々から助言を頂いたり育児サークルも充実していてすぐに同じ小さな子供がいる母親達と知り合いになれたとの事、もう少し大きくなると図書館での子供向けの読み聞かせやイベントに参加して親子共々楽しんだそうです。縁故のない場所での初めての子育ても、多くの方の声かけや気持ちよく整備された公園をのびのびと歩く娘の様子など、今はとても楽しい思い出ばかりです。

娘もすでに中学生になり地元の友達とも良い関係を築いているようです。大人になった時に自分が育った場所だという下地作りが既に出来上がっている感じがします。これには家族みんなが餅つき・盆踊り・お祭り・カレー大会等の町会行事に参加したことが大きく影響していると思います。

餅つき大会では諸先輩方からお餅のつき方を教わり、つきたての柔らかいお餅の食感はなんとも言えず美味しいです。是非たくさんの子供達にこの美味しさを味わってもらいたいです。

盆踊り大会では焼きそば作りに勤しみ美味しく安く皆様に提供出来ることを楽しんでおります。

そして何と言っても二年に一回ではありますが北野神社例大祭での御神輿担ぎでの爽快感は最高です！

御神輿を担ぐことにより町会の人達と一気に親近感が増しました。また他町会の方々との交流が深まる場でもあります。私の青年部活動は祭りに参加した所から始まりました。興味のある方は是非参加をお待ちしております！

カレー大会では女性陣と協力し美味しいカレーを作り、そして飯ごうご飯を炊き、子供達が美味しく食べているのを見るのはなんとも言えません。

松が丘片山町会のこれらの行事は我々町会の皆がより楽しく安全に繋がりをもって過ごせる為に、そして次代を担う子供達のために行われているのです。是非皆様で参加して楽しく明るい

町会にして行きましょう。

私も今では街を歩けば色々な方に出会い挨拶を交わすようになりました。このように、徐々にではありますが優しく温かい松が丘片山町会の皆様と触れ合うことにより自分も少しずつ松が丘片山町会に根付いていくのを実感しつつ愛着が増しています。また街の印象も引越して来た時と何も変わっておりません。毎朝鳥のさえずりが聴こえると何とも言えずこの素敵な環境に感謝したくなります。

私も今後百四十周年(九十六歳)までも目指して、皆様と一緒にゆっくりとこの素敵な街で暮らしていこうと思います。





編集後記

——ふるさと松が丘片山の街づくりの再スタートへ

立冬が過ぎ、妙正寺川には今年もカモノの一团が飛来してくられた。松が丘二丁目には狸が住んで居ると云う。一丁目にはハクビシンがいるらしい。町会も江戸時代から続く旧家の方々と、明治・大正・昭和・平成にこの地に來られた皆さんが協力して、町内の諸活動に活躍していただいている。そうした方々にとってこの松が丘片山がふるさとである。そういった町会行事を進めている。その町会が創立九十周年を迎えるに当たり、町会員の皆さんに提案する企画検討のため、実行委員会を昨年十二月スタートさせた。記念品の選定・配布、記念式典・祝う会の開催、そして最後にこの記念号を発行することになった。執筆者は実行委員会で相談して決めさせていただいた。内容は執筆者の自由、青年部で活躍中の若手の会員にも執筆をお願いした。そして記念式典・祝う会の写真を撮影者の岩川正明さんを選んでいただき、編集を興梠与利子さんに担当いただき、この小冊子が完成した。ふるさと松が丘片山の思い出と町会活動の歴史を刻んだ本が出来た。百周年に向かって参考にしていただければ幸甚である。

尚、左記に実行委員十八名を紹介させていただく。
熊澤明、古屋利一、久保田巖、深野宜伸、森龍朗、新藤捷、
小山稠則、河野涼一、深野晃司、岩川正明、塚原真理子、
山下圭一、城所清二、松島信一郎、興梠与利子、平柳和子、
米山ゆう（敬称略）

平成二十六年十二月二十日 実行委員長 山田晃 記



昭和三十年八月 片山橋